「十字架を背負ってわたしに従いなさい」

年間第 12 主日・C年（16.6.19）

キリストを着ている

早速、今日の第一朗読ですが、パウロがエフェソから書いたとされるガラテアの諸教会に宛てた手紙からとられております。実は、これらガラテアの教会とは、パウロの第１次宣教旅行（46-48AD）の際に創立したピシデアのアンティオキア、イコニオム、ルステラ、デルペの諸教会であります。

ところが、なんと外部から偽教師（にせきょうし）たちが、これらの教会にやって来て、「別の福音」を吹き込み、信者たちを惑わすと言う深刻な事態が発生したというのであります。そこで、その解決のために、パウロは、責任上、この手紙を書く必要に迫られたのであります。とにかく、そのときの状況を、手書の冒頭で次のように厳しく忠告しております。

「キリストの恵みへ招いてくださった方（かた）から、あなたがたがこんなに早く離れて、ほかの福音に乗り換えようとしていることに、わたしはあきれ果てています。ほかの福音といっても、もう一つ別の福音があるわけではなく、ある人々があなたがたを惑わし、キリストの福音を覆（くつがえ）そうとしているにすぎないのです。・・・今また、わたしは繰り返します。あなたがたが受けたものに反する福音を告げ知らせる者がいれば、呪われるがよい。」（ガラテヤ 1.6-7）

ちなみに、同じパウロは、これまた分裂騒ぎを起こしたコリントの教会に宛てて福音宣教の本質を次のように雄弁に書き綴っております。

「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシャ人は知恵を追求していますが、わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、・・・召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。」（一コリント 1.22-24）

ですから、福音とはマルコがいみじくも宣言しているように、まさに**「神の子イエス・キリスト」（マルコ 1.1 参照）**ご自身にほかなりません。

続いて、パウロは、今日の朗読箇所で、キリスト者のあるべき姿を次のように見事に描いているのではないでしょうか。

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。」

このキリストとの密接な結びつきあるいは一致とは、実は、洗礼による次のような復活の恵みの体験にほかなりません。パウロはいとも簡潔に、次のように説明してくれます。

「わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しいいのちに生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活にもあやかれるでしょう。」（ローマ 6.4-5）

ですから、キリスト者になるということは、古い自分つまり罪に死んで、日々、新しい復活のいのちに生きることと言えましょう。

従って、このまさに新しい生き方を、また、パウロは次のように強調しております。

「古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、深い知識へと進むのです。」（コロサイ 3.9b-10）と。

日々十字架を背負って

次に、今日の福音ですが、これまたキリスト者の生き様についてのイエスご自身のご命令を伝えております。

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」と。

ここで、まず、「自分を捨てる」ということですが、「古い自分の死ぬ」と言い換えることもできるのではないでしょうか。事実、先ほど引用したローマの教会への手紙では、洗礼の恵みを説明する際に、パウロは次のように教えております。

「わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。・・・このように、あなたがたも自分の罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。」（ローマ 6.6-11）

つまり、わたしたちは日々回心して罪に死に、復活の新しいいのちを自分のためにではなく、まさに神のために生きるように、生まれ変わらなければならないのではないでしょうか。簡潔に言い換えるならば、日々、我を通すことをやめ、へりくだってイエスに聞き従う生き方の実践にほかなりません。

ですから、たとえば、弟子たちのリーダーだったペトロでさえ、イエスの人生の最期を説明されたとき、ぶしつけにもイエスをわきへお連れして、次ぎのようにいさめたというのであります。

「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。イエスは振り向いてペトロに言われた。『サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず。人間のことを思っている。』」（マタイ 16.22b-23）

たとえ、洗礼を受けて新しい人に生まれ変わったとしても、この人間の思いにまだ捕ら

われているのではないでしょうか。ですから、すでに旧約時代の預言者イザヤは、次のように神の思いと人の思いの大きな違いについて、説明しております。

「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり
わたしの道はあなたたちの道と異なると
　　主は言われる。
天が地を高く超えているように
わたしの道は、あなたたちの道を
わたしの思いは
　　あなたたちの思いを、高く超えている。」（イザヤ 55.8-9）

ですから、日々、忠実にイエスについていくためには、まさに、日々の回心つまり、心の姿勢の根本的切り替えがなくてはならないのであります。

今週もまた、日々回心し、忠実にイエスに聞き従うことができるように共に祈りましょう。